

2. 本当にここが海だったの? ～本物に触れる～ 若葉台保育園(福島県いわき市)

[4、5歳児]

「動いて」「気付いて」「自分のものにする」過程を繰り返し体験できるように支援することが、「科学する心を育てる」ことになるのではないかと考え、取り組んだ。そのため、事例を読み取るポイントを下記の①～④の4点とし、まとめた。

事例の見方・ポイント

- ① 自発的に動いている場面 → ▲
- ② 気付いている場面 → ★
- ③ 自分の体験・気づきを、自分のものとして受容できている場面 → ●
- ④ 保育者の意図的な支援・指導 → ※

事例1 本当にここが海だったの? 4・5歳児

ドリームガーデンでエタマメの種植えを行う。保育者がエタマメの種の用意を始めると、「早く見せて」「どんなの?」と、興味を示す。ゆっくり袋から取り出すと、「えーっ!!」「色がすごい!」と、驚く。「食べるのと違うよ?」と、A児は、ジャガイモは食べるものと同じものを土に植えたことを言い、エタマメも食べるものと同じものを種として植えるのだと思っていたようだ。

エタマメの種植えを終えると、▲いつものように虫探しや、植物遊びが始まる。たっぴりと自然と関わって遊んでいるうちに、★「先生!これ何?貝の模様がついてるよ」「え、どれ、ぼくにも見せて」と、一人の手のひらに置かれた石を皆で見る。※「うわ、貝の化石だ!すごい見付けたね」と保育者が言うと、★「えっ、なんで畑なのに、貝の化石が出てくんの?」「昔はここが海だったの?」「本当にここが海だったの?」と、目を丸くしてもう一度、化石を囲んで顔を寄せ合う。その後、自分も化石を見つけようと土を掘ったり、石を裏返したりする子どもたちであった。

えっー!!
色がすごい!



もっと、化石を
見つけよう。
この辺が怪しい。



※園に戻っても図鑑を調べるなど、恐竜などの大昔の生き物への興味へとつながっているようであったので、化石発掘体験ができるアンモナイトセンターへの体験学習を計画した。現地では、フタバスズキリュウやアンモナイトの話を聞いたり、実際に化石発掘体験をした。貝やサメの歯の化石が出てくると●「ここも、昔は海だったんだね」と体験を通して納得することができていた。



お家に持って
帰ったよ!



また、※貝塚や土器などが展示してある「考古学資料館」へも体験学習の機会に足を運ぶ。昔の生き物への興味から、昔の人々の暮らしにも興味・関心が広がった。▲「勾玉は昔のネックレスだよ(係員)」と、聞くと、女兒数名は、釘付けになり見入る。縄文土器の形を「チューリップみたいだね。」と、A児。現代で言う水筒やフライパンなどの土器を見て興味津々の子どもたち。普段の生活で目にしている道具と比較することで、古代の生活が身近で、分かりやすいものに感じられていたようだ。★「見て、これ何?」「この穴はどうしてあるの?」と、次々に質問し、係員の服の袖を掴んで離さないB児。触ってみると「硬いんだね」「なにで出来てんの?」「土だよ(係員)」「えー!土で出来んの?作ってみたーい」と、C児。「よしよし、作ってみたいんだな」と、保育者は一人一人の発言を逃さず捉え記録する。

また、次なる展開が保育者の中に一瞬でイメージされていく。尽きることがない子どもの素直な興味・関心を形（現実）にできるよう支援していきたいと感じた。



本物の土器に触る。「かたーい！」と感触を確認。「昔の人ってすごいね」

昔の人のお家は、どうなっているのかな？入ってみよう。



考察

本物を見たり、触れたりする活動にこそ驚きや感動があることを期待していたが、実際に出かけてみて子どもの反応を傍で見てみると、感動している子どもの姿に、保育者の自分が感動してしまうほど、子どもの感性は豊かなものであった。

事例2 ウサギさんにニンジンわけてあげようね

3・4歳児

▲「ウサギさんに、ニンジンつくってあげようよ」という子どもの言葉から、畑にニンジンを植えることにした。その生長を楽しみに見守り、育てた。

収穫したニンジン进行ウサギに真っ先にあげた。「自分たちも食べたい」と、クラスでニンジンケーキを作った。

★採りたてのニンジンには「ひげがついてる！」と驚き目を丸くする3歳児。※「どうしてかな？」と、問いかけるとしばらく考え、●「根っこだよ。土から栄養もらってるんだよ」と答える4歳児のA児・B児。3歳児は隣で黙って聞いている。よっぽど印象的だったのか、その後描いた3歳児の絵には、たくさんのひげがついていた。

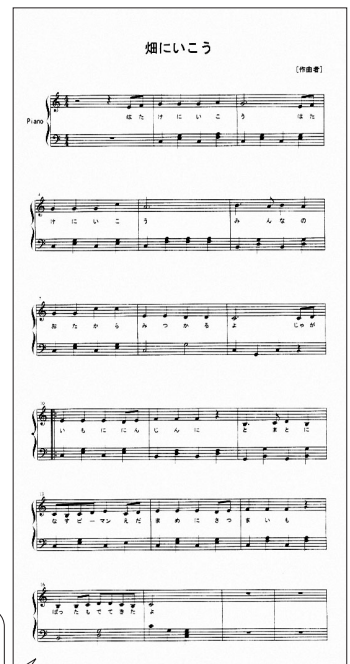
むずかしいよ。(子)
力を入れてね。(給食の先生)



ウォッチガーデンに行く途中で、できた歌。
「畑に行こう」
♪みんなのお宝（野菜）
待ってるよ〜♪

お誕生会で歌を歌ったよ！

保育発表会でも
発表したいな。



考察

ニンジン育て、本物のニンジン进行収穫して「本物に触れる」ことで、今まで気付かなかった“ひげ”に興味に向き、絵に表現された。

また、歌を作ったりケーキを作ったりするなど、少し難しい活動にも取り組むことに結びついた。

ポイント

「ドリームガーデン」と呼んで親しんでいる身近な畑から出てきた「もの」に、子どもたちが「何だろう？」「どうして出てきたの？」という思いをもてることが、大事なきっかけです。「化石」という魅力的で不思議なものへの関心から、発掘体験へとつながっていきます。また、自分たちで育てたことで、今まで知っていたニンジンと実際に育てたニンジンとの違いから「ひげ」「土から栄養をもらう根」に気付き更に歌作りもするなど、ニンジンへの理解を深める体験に結びついています。このように、本物に触れる体験ができる環境を設定する保育者の感性や保育の姿勢は、主題に迫る重要な援助です。